

Daily Dump



企業概要

会社名	Daily Dump (PBK Waste Solutions)
設立	2006
事業分野	ゴミ処理器具の製造・販売
本社	バンガロール (インド)
社員数	27



事例のポイント

インドにおいて、増え続ける廃棄物、特に食品廃棄物(生ごみ)に対処するために、それまで使われていなかったコンポストを普及させることで、市場を作り出した企業の事例である。ポイントとして、①ライフスタイルに対するアピール、②伝統陶芸を活用したデザイン重視の製品、③伝統陶芸コミュニティの活性化、が挙げられる。

企業プロフィール

2006年に設立された同社は、家庭用、コミュニティ用のコンポスト(生ごみなどを微生物の働きで分解して堆肥化する装置)を製造・販売している。

陶芸家とともに開発したユニークなデザインが評判を呼び、コンポストを使う習慣がなかったインドに、コンポスト市場を作り出した。

学校やコミュニティでのワークショップを通じて、廃棄物削減に関する意識を高めつつ、コンポストの使い方や楽しさを伝える活動も行なっている。

背景にある社会課題

インドの都市部では廃棄物問題が深刻化している。主要な130の都市を合わせると「1日12万トン」のゴミが廃棄されており、その処理にかかるコストと労力は地方自治体にとって大きな負担となっている。

このうち半分が食品廃棄物(いわゆる生ごみ)であるため、対策の上では重点が置かれているが、インドでは家庭で生ごみを処理することは一般的ではなく、コンポストの市場がなかったため、対策上の決定打が見つからない状況が続いていた。

ビジネスモデルと製品の特徴

同社は、一般家庭や地域コミュニティ、飲食店などの事業者などに対して、多様な種類のコンポストを提供している。

コンポストの機能(生ごみの堆肥化)だけではなく、デザインにも注目した製品開発を行なっていることが同社のビジネスモデルの特徴である。コンポストを持つことは、単に生ごみの処理に役立つというだけではなく、循環型で自然なライフスタイルに近づく一歩となるものであると位置付け、啓発のワークショップを開催することで、着実にユーザーを増やしている。

伝統的なコンポストを陶器で作成した「テラコッタ・ポット」に加え、現在では、落ち葉用のコンポストである「リーフ・コンポスター」、大規模な業務用コンポストである「アガタ 550」など、複数のラインナップを提供している。

SDG ビジネスへのアプローチ

① ライフスタイルに対するアピール

そもそもコンポストの市場がないインドでは、機能面だけを満たした工業製品を開発するだけでは、普及の見込みが立たなかった。

このため、同社は当初からモノとしてのコンポストを販売するのではなく、コンポストを用いることで可能になる「持続可能で自然なライフスタイル」をユーザーに訴求するアプローチを取った。

このため、学校や農村などでのワークショップを多数開催し、コミュニティの意識を変容させることで、持続可能なライフスタイルへの関心を高め、次第に製品を浸透させていった。

② 伝統陶芸を活用したデザイン重視の製品

このようなライフスタイルの訴求を行うためには、(日本で一般的に見られるような)プラスチック製のコンポストは不向きであると考え、同社では、自然の素材を用いた、デザイン性の高いコンポストの開発を行なってきた。

陶器は、多孔質で分解しやすく、自然の堆肥化プロセスに適している。このために陶芸家たちと多数の試作品を作り、デザインを練り上げ、実用性と、日常の中に置いても違和感のないデザイン性を備えたコンポストを開発した。

現代的な都市社会の課題に取り組む上で、伝統技術を活用した例である。

③ 伝統陶芸コミュニティの活性化

インドには豊かな焼き物の伝統があり、かつて陶芸家は社会、文化、経済に貢献する職人として敬意を持たれていたが、現在では、近代的な工業製品の食器などに押され、陶芸家の地位や収入は低下の一途を辿っている。

陶芸家の子供たちは、その技術を学び、実践することを望まず、陶芸家の数は次第に減少しつつある。

このような陶芸のコミュニティに対し、同社は、専門性に敬意を払い、共同での製品開発を行うとともに、安定的に多くの数量の発注し、その地位と収入の向上を後押ししている。

SDGs へのインパクト

- 同社のコンポストは、10 万世帯以上に使われ、競合も現れるなど、市場を創出している。
- 生ごみの堆肥化を通じて、「6 万キロ/日」の有機物を処理し、食品廃棄物の量を削減している。

- 「4 万 5 千キロ/日」の良質な堆肥を農家に提供し、土壌にミネラルを還元している。
- 廃棄物の輸送、処理、埋立ての際に排出されていた「4.34 トン/日」の CO2 を削減している。
- 製品開発への関与や製造の委託を通じて、インド全土で 20 の陶芸家コミュニティを育成している。

国際機関・ドナーとの連携

- 国内の地方自治体、NGO、NPO、投資家との連携を通じて事業を拡大させている。
- インド北部では現地 NGO との連携を通じて、陶芸家コミュニティとのネットワークを拡大している。

SDG ビジネス 起業家の言葉

私はバンガロールで子供時代を過ごしながら、増え続ける廃棄物が、やがて大きな問題となるであろうことを実感していた。だからこそ、野菜や果物の残骸など、家庭から出る有機物や湿ったゴミを堆肥化するというシンプルなプロセスが、インドのゴミ問題の解決に役立つことを知った時には驚いた。

調査を進めていくうちに、自宅で簡単に生ごみを堆肥化できるコンポストが切実に求められていることがわかったが、その一方で、持続可能なライフスタイルやごみ処理の基本について、まず人々に伝える必要にも気付かされた。

そこで私は、コミュニティを対象にして、コンポストの基本と方法、その背後にあるライフスタイルを教え、そのライフスタイルを支援するためにコンポストツールを販売するというモデルに取り組むことにした。

プーナム・ビル・カストゥーリ
Daily Dump 創業者